

平成21年6月1日

第63号

関東の森林から



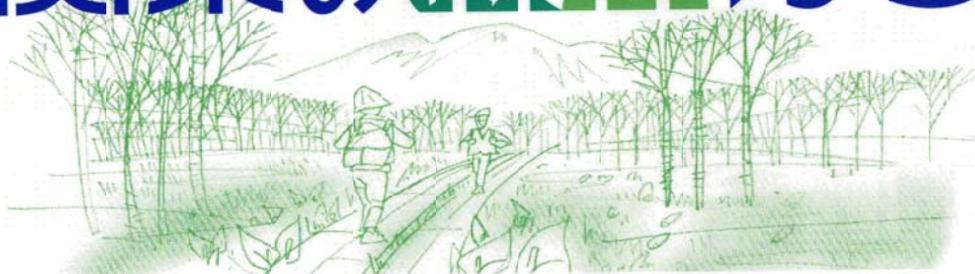
国民の森林 国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



磐梯山と猪苗代湖（天神浜から）（福島県猪苗代町）

（撮影：会津森林管理署 須藤 秋夫）

美しい森林づくり

美しい森林づくりに向けて

関東森林管理局 森林整備部長 河野 充

私の視点

「芝浦創造の森」

芝浦工業大学柏中学校 教頭 野村 春路 氏



美しい森林づくりに向けて

関東森林管理局 森林整備部長 河野 充



私たちは、なぜ「森林」に心をひかれるのでしょうか。

森林に対する心は、野山で遊んだ思い出といった感傷だけではなく、もっと深いところ、私たちの生存の根源に関わっているのです。

地球上の生命は、38億年前に海中で誕生しました。大気中には、酸素がほとんどなく、CO₂が20%以上を占める状態でした。あるとき、光合成を行うバクテリアが生まれ、CO₂を吸収し酸素を作り始めます。

やがて、浅い海に繁茂する緑藻類の中から、原始的な植物が陸に上がっていきます。樹高10mを超える巨大なシダ植物が最初の大森林を形成するのが4億年前のことです。この大森林時代に倒れた木が堆積し、炭素が石炭として地中に大量に貯蔵されました。

その後、種子で繁殖するマツ、スギなど裸子植物が進化します。種子は乾燥に強く内陸にも森林が発達します。ここまでの過程で、森林の発

達により陸上での光合成活動が活発になり、CO₂の吸収と炭素固定が進むとともに、地球の気候が安定化していったものと考えられています。

今から1億年前、恐竜が活躍した白亜紀には被子植物が出現します。被子植物の繁殖や伝播には、昆虫や鳥の助けを必要とし、植物たちは鳥や昆虫などと共生し共に進化して、微生物などとともに森林の中で複雑な生態系を形作っていきます。

180万年前頃から、地球の気温は急激に低下し、何度も氷河期が訪れます。そのたびに森林は縮小・拡大を繰り返していききます。そして、森の中で暮らすサルたちの中から、二本足で歩き道具を操る一風変わった種類が現れ、いつの間にか我物顔で地球にのさばるようになったのです。

こうしてみると森林は、現在の地球環境の中でできあがったのではなく、逆に、地上に森林が四億年間存在し続けた結果として、現在の大気

達により陸上での光合成活動が活発になり、CO₂の吸収と炭素固定が進むとともに、地球の気候が安定化していったものと考えられています。今から1億年前、恐竜が活躍した白亜紀には被子植物が出現します。被子植物の繁殖や伝播には、昆虫や鳥の助けを必要とし、植物たちは鳥や昆虫などと共生し共に進化して、微生物などとともに森林の中で複雑な生態系を形作っていきます。



ブナの天然林



間伐中のスギ人工林



高性能林業機械による造材

組成（CO₂濃度）や気候、豊かな土壌が創られたと理解できます。さらに、森林は自然環境だけでなく人類の祖先までも創り出しました。人類の進化も森林の存在ありきなのです。森林の重要性の本質は、ここにあります。そしてこれこそ、私たちが「美しい森林」を求める根源なのではないかと思えます。

いま関東森林管理局では、地球温暖化防止に向けた森林吸収源対策としての間伐、スギ、ヒノキ林の長期化、天然力を活用して広葉樹を導入する施業などを通じて「美しい森林づくり」を推進しています。

特に、管理する国有林118万鈴

の3割を占める人工林を健全に整備していくため、間伐の実施をこれまで以上に強力に進めており、伐採や搬出を効率的に行うために、列状間伐や路網整備にも積極的に取り組んでいます。

国民の皆様から任せられた国有林を豊かで美しい森林として将来の世代に引き継いでいくため、職員一人ひとりがそれぞれに森林の重要性を改めて認識し、地域の方々とも手を携えながら、森林づくりに進めて参ります。



クマシデの花

赤谷プロジェクト 近況報告

水生昆虫談話会メンバーの来訪

5月10日(日)、水生昆虫談話会
員で群馬県自然環境保全審議会委員
の掛川優子さん、神奈川環境科学セ
ンターの野崎隆夫さん、信州大学の
学生他約20名の皆さんが「赤谷の森」
を訪れました。
当日は、「いきもの村」で赤谷プ



水生昆虫調査の様子

プロジェクトの取組について聞いてい
ただいた後、茂倉沢や小出俣沢で水
生昆虫を調査しました。
この中で環境省や国土交通省など
においても河川の水質環境の指標と
して、生息している水生昆虫の調査

結果を活用しているなど、参考とな
る事例について話を聞くことが出来
ました。

赤谷プロジェクトでは、溪流環境
復元ワーキンググループを設置し、
溪流を自然本来の姿に復元する取り
組みを進めているところであり、今
後は溪流環境の指標として水生昆虫
について、より着目していきたいと
考えています。

放送大学の面接授業

昨年度から、放送大学群馬学習セ
ンターによる面接授業を赤谷森林環
境保全ふれあいセンターと(財)日
本自然保護協会が連携し、「生物多
様性保全と国有林管理」をテーマと
して実施しています。

今年度は、5月16日(土)・17日
(日)の2日間にわたって「赤谷の
森」などを会場として行われ、放送
大学の生徒約20名が参加しました。

一日目は、沼田市図書館で赤谷森
林環境保全ふれあいセンター所長か
ら「赤谷プロジェクトの内容とその
意義」を(財)

日本自然保護
協会から「生
物多様性保全
と新しい時代
における地域
環境管理」な
どの講義を行
いました。



受講生との質疑応答



現地で「赤谷の森」について学ぶ

二日目の野外授業はあいくの小
雨模様でしたが、「赤谷の森」の豊
かな自然を観察するとともに、当局
OBの長島成和氏が、森林土壌と植
生の関係や生物多様性について解説
を行いました。
今後このような機会を活用して、
林野庁が生物多様性の復元に取り組
んでいることをPRしたいと考えて
います。

新治中学校総合学習への協力

昨年度から、地元新治中学校から
の要請で、赤谷プロジェクトの取組
を紹介していますが、「関東の森林
から」(第61号参照)、今年度も5月
20日(水)に、同校の一年生約70名
を対象として、赤谷プロジェクトの

取組について説明し、その後、「赤
谷の森」の動物や植物について詳し
く解説しました。

「赤谷の森」は、日本海側と太平
洋側両方の動植物が生息・生育して
おり、他の地域に比べ猛禽類の繁殖
状況が良好で、非常に豊かで特徴の
ある自然環境にあることをスライド
やブナとイヌブナの標本などを交え
ながら解説しました。

「地域の皆さんは、意外と身の回
りの自然について知らない。関心が
ない。」との話は教育関係者や地域
の方からもよく耳にします。赤谷プ
ロジェクトの環境教育の取組を通じ
て、これから地域を担っていく子供
たちに、身近にある豊かな自然環境
に少しでも関心をもってもらえるこ
とを期待しています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)



標本を使ってブナとイヌブナの違いを解説



熱心に講演する立松和乎氏

関東森林管理局は、4月25日(土)「グリーンフェア2009」くみんなの未来のため、みんなでつくろう! 森づくりシンポジウムを、日本森林業振興会と共催で実施しました。当日は、あいにくの雨となつてし

グリーンフェア2009を開催 指導普及課



もっくん作りを楽しむ子供たち

まいりましたが、木工品作りや丸太切りコーナー、群馬県、上毛新聞社、NPO法人森の会及び日本野鳥の会群馬県支部の展示ブースなどに多くの市民の方々が来場しました。また、地元テレビ局や新聞社等の取材もあり、国有林の治山事業や企業が参加する森林づくりなどが紹介されました。

特に、今年のグリーンフェアのメインである作家の立松和乎氏の「足尾の山に100万本の木を植える」と題した講演会には、群馬県内の高校生などをはじめ、一般市民の方々約200名が聴講に訪れました。立松氏は、荒廃した足尾で植林活動に取り組んで14年目となり、昨年の植林活動には1,500名もの参加者があったことを紹介しつつ、「貧者の一灯で良い」「心に樹を植えよう」といった文学者ならではの話をしていただきました。



立松氏に質問する高校生

講演後は、高校生等からの植林活動に対する質問にも、丁寧に分かりやすくお答えいただき、講演会を終りました。

また、別室の「治山事業紹介コーナー」では、足尾の治山事業や中越地震で被害を受けた山地の復旧の様子を何枚ものパネルで紹介し、訪れた方々に大変好評でした。



治山事業紹介コーナーを熱心に見学する方々



日本野鳥の会群馬県支部のブース

私の視点

「芝浦創造の森」

芝浦工業大学柏中学校 教頭 野村 春路

芝浦工業大学の創立70周年記念事業の一環として、1998年11月に福島県南会津郡舘岩村（現、南会津町）に高杖セミナーハウスが建設された。この直後の1999年4月千葉県柏市に我が中学校が開校され、この年より中学1年生が同セミナーハウスを宿泊地として、「高杖グリーンスクール」を実施するようになった。この学校行事は、毎年5月20日前後に2泊3日で行う環境学習をテーマとした校外研修である。研修メニュー



「芝浦創造の森」の風景

この毎年の活動において、南会津支署管内の国有林を実習場所として各所を毎年移動していたが、昨年より国有林の分収造林制度を利用し、芝浦工業大学は湯ノ花温泉の約7km南に約1haの土地を55年の期間で契約し、「学校分収造林」として恒常的な実習の土地を得た。

としては、高杖周辺の森林観察、尾瀬ブナ平の自然観察、地元の製材所見学と木工体験であるが、「メインディッシュ」は会津森林管理署南会津支署のご協力による森林教室である。この10年間、管理署員16〜18名の方々の協力を得て、森林の除伐や枝打ち、伐採などの体験をさせて頂いた。中学1年生は身体も小さく非力ではあるが、管理署の方々の作業を見て、一所懸命自分たちなりに森林作業を行ってきた。



伐採作業(2007年)

2008年度は、この土地に杉の木を約2,700本植林した。生徒たちは、1時間ほどの短い時間ではあったが、植林体験をし、55年後の生育した杉の木に思いを馳せたと思う。また、校名にちなんだ柏の木、また将来の花見の宴を夢見て桜の木を領域の端に植え付けた。今年度は、昨年植えた杉の木が冬の間の豪雪で倒れているので、倒木起こしの作業を生徒に体験してもらう予定である。さらに今年度は、この分収造林を「芝浦創造の森」と名付け、しっかりとした看板を立て、管理署の関係者と共に除幕式を執り行う計画がある。この名称の由来は、本校の建学の精神「創造性の開発、個性の発揮」の前半部分からきており、歴代の生徒たちが55年間の月日をかけて一本一本の杉の木を育み、創造して行く森であるということ意味している。



植林作業(2008年)

この学校分収造林が、本校の環境教育の活動場所に加わることに伴って、グリーンスクールは、「木を育てること」「森林の生態系を観察し理解すること」「木材の性質を理解し有効利用すること」という循環を学ぶことがで

きる学校行事となった。さらに、毎年2月には「ホワイトスクール」と銘打って、高杖スキー場においてスキースクールも行っている。これにより、自分たちが観察した高杖の森林が、雪に閉ざされる風景もみることもになり、初夏と冬の景観の対比も行っている。

自然や崇高なもののかかわりという大きな目的を踏まえ、環境学習の幾つかの教育項目の連関を可能にするために、今後とも「芝浦創造の森」を有効に利用し育てていければと思っています。



森林管理署のみなさんと記念撮影(2007年)



天候に恵まれた休日の高尾山頂

「高尾」と聞くと研修所を思い浮かべる方も多いかと思いますが、高尾駅から研修所に向かう途中に高尾森林事務所があります。管轄する国有林の面積は約1,200鈔で、スギ・ヒノキを中心とした人工林が約8割を占めています。また高尾山を中心に約770鈔が「明治の森高尾国定公園」に指定されており、このうち約450鈔が国有林です。その他の国有林も「高尾陣馬都立自然公園」の指定を受けて

森林官からののおたより

東京神奈川森林管理署

高尾森林事務所

森林官 関 清孝

おり、年の利用者は250万人とも300万人とも言われています。高尾山には約1,600種の植物が自生していると言われており、都心から近く比較的気軽に登れる山ということもあって、リピーターや口コミ等で年々その数も増えてきているように思われます。また、平成19年から連続して「三つ星」の旅行ガイドブックで「三つ星



景観伐採後、一丁平から富士山を望むハイカー



高尾山から見えるダイヤモンド富士



景観伐採により整理された林内

の山」と評価されたことで、最近には特に外国の方の姿を多く見るようになりました。反面、安易な登山者（革靴やハイヒール、サンダル等）で登る方も多く見受けられ、山岳救助隊のお世話になる方も後を絶たない状況にあります。国有林では、平成18年度から3ヶ年で、ハイカーの多い高尾山山頂から小仏城山の稜線部を中心に、富士山の展望を確保するなど、景観に配慮した高齢級間伐を実施してきました。これまで陽が当たらず薄暗かった歩道も今では見違えるほど明るくなり、多くのハイカーから好評を得ています。また、平成18年度からスター

トしたグリーン・サポートスタッフの4名が、ハイカーの多い土日祭日を中心に巡視にあたり、マナー向上に対する活動やコース・植物案内など広範囲にわたってPRに努めています。当事務所は管理面積は比較的少ないのですが、通常業務以外に、地元住民や自治体、各種団体などの対応が非常に多く、過去の森林官もさぞかし苦労が多かったのではないかと思います。昨年12月に森林官になったばかりの駆け出しですが、いつまでも初心を忘れず迅速な対応を心がけ、署との連携や関係機関との連絡調整などタイムリーな対応を行っていききたいと思っています。



活躍しているグリーン・サポートスタッフの皆さん

管内の百名山 磐梯山



裏磐梯・榎原湖(野鳥の森周辺)

「会津磐梯山は宝の山よ・・・」
と民謡でも有名な磐梯山(標高1,819^{メートル})は、昔から会津の人々からふるりの山として愛されています。

主峰磐梯山は、全国第4位の広さをもつ猪苗代湖(面積104平方^{キロメートル})の北にそびえてい

赤埴山(1,430^{メートル})、櫛ヶ峰(1,636^{メートル})を含めて「磐梯山」と称されています。

猪苗代湖に面した南側は表磐梯と呼ばれ、会津富士ともいわれているように裾野が広がる美しい姿を見せえています。反面榎原湖に面した北側は裏磐梯と呼ばれ、明治21年の噴火によって山容が一変して荒々しい姿を見せています。

例年5月の第二週に山開きが行われ、今年は5千人を超える登山者が訪れており、当署からは管轄する猪苗代森林事務所森林官が国有林のPRを含め参加しました。地元猪苗代町によれば、昨年は3万人を超える登山者が訪れています。

磐梯山周辺には、猪苗代湖や、裏磐梯の榎原湖を含め多くの湖沼群等があり、観光シーズンには、訪れる多くの観光客を楽しませています。特に磐梯山の裾野は中傾斜地となっ

ていることから、多くのスキー場がありウインタースポーツの一大基地となっており、県内でも歴史のある猪苗代スキー場は、表磐梯の国有林をレクリエーションの森(野外スポーツ林)として昭和34年から利用しています。

平成20年シーズン中の猪苗代スキー場周辺のスキー客入込数は47万人を記録しており、当署では、今後とも自然観賞、スキー及び登山等森林を



磐梯山ブナ林(八方台)

利用したレクリエーション・保健休養の場として利用の推進を図ることとしています。

また、磐梯山は、「会津山地緑の回廊」として、生物多様性の維持向上を図るため、貴重な野生動物の生息環境へ配慮しながら適切に森林の維持管理を行うこととしています。

会津森林管理署庁舎から遠望する磐梯山は、裾野から穏やかに新緑が進み、活火山とは思えない優しい表情をしている今日この頃です。

(会津森林管理署広報広聴連絡官)

参加者募集

国有林野事業見学会
奥利根水源の森」と

一面のユリを見に行こう
利根川源流部の国有林である「奥利根水源の森」を始め「照葉峡風景林」や奈良俣ダム、「森の巨人たち100選」にも選ばれているブナの巨木「ブナ太郎」を見学します。

また、国有林野内にある尾瀬岩鞍スキー場は、夏季になるとユリ園としての営業を開始します。

見頃を迎えたユリの花をお楽しみください。

実施日 平成21年8月7日(金)
受付平成21年6月1日から
7月24日まで

参加定員25名
詳しくはホームページ

<http://www.rinyanaaff.go.jp/kanto/>
又は関東森林管理局
指導普及課へお電話
を027(210)1175



発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 210-1159